



カケハシ・プロジェクト（米国） アメリカボウル派遣の記録

1. プログラム概要

日本の高校生を対象に開催されているアメリカボウル大会^{（注）}の成績優秀者ら 11 名を、日米に対する理解促進を目的として米国ワシントン D.C.へ派遣しました。米国滞在中、一行は現地大使館や政府関係機関への訪問、生徒との交流を通じて、日米関係や両国の文化、外交関係について学び、日米両国の友好・信頼関係を深めました。異なる文化や習慣に触れながら学びや気づきを得るとともに、交流先で出会った人々に向けて日本の魅力を発信しました。

（注）アメリカボウル大会：一般財団法人日米協会が、日本人高校生が英語を通じて米国に関心を持ち、日米関係についての理解を深めることを目的に主催している大会

【参加者】日本の高校生及び一般社団法人日米協会関係者 合計 11 名

（内訳） お茶の水女子大学附属高等学校の生徒 3 名
聖光学院高等学校の生徒 3 名
西大和学園高等学校の生徒 3 名
一般社団法人日米協会関係者 2 名

【訪問地】米国 コロンビア特別区（ワシントン D.C.）、メリーランド州バートンズビル

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

2 月 27 日（木曜日） 【渡航前オリエンテーション】事業目的・ミッション、日程説明、
渡航上の注意、感染症対策等

■ 派遣プログラム：

3 月 20 日（木曜日） 羽田空港より出国、ワシントン・ダレス国際空港より米国入国
3 月 21 日（金曜日） 【視察】ナショナル・モール
【表敬訪問】在アメリカ合衆国日本国大使館 駐米大使 山田 重夫 氏
公使 兼 日本広報文化センター所長 三宅 史人 氏
【視察】国務省
3 月 22 日（土曜日） 【視察】米国議会図書館
【ホストファミリー対面式】
3 月 23 日（日曜日） 【ホームステイ】
3 月 24 日（月曜日） 【学校交流】Paint Branch High School
【視察】国立アメリカ歴史博物館
【視察】国会議事堂（下院議場）
【表敬訪問】ジェン・キガンス下院議員

3月25日（火曜日） 【視察】全米日系米国人記念碑
 案内人：国立日系米国人記念財団 ジョン・トベ 氏
 【視察】ワシントン DC 日米協会
 【ワークショップ】報告会準備（渡航成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）

3月26日（水曜日） ワシントン・ダレス国際空港より出国
 3月27日（木曜日） 羽田空港に入国

2. 記録写真

	
3月21日【視察】ナショナル・モール	3月21日【表敬訪問】在アメリカ合衆国日本国大使館 駐米大使 山田 重夫 氏
	
3月21日 【表敬訪問】公使 兼 日本広報文化センター所長 三宅 史人 氏	3月21日【視察】アメリカ合衆国国務省
	
3月22日【視察】米国議会図書館	3月24日【学校交流】Paint Branch High School

	
3月24日【視察】国会議事堂見学	3月24日【表敬】ジェン・キガンス下院議員
	
3月25日【視察】全米日系米国人記念碑	3月25日【視察】ワシントン DC 日米協会

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 高校生

現地高校での交流では、多文化主義や親日の雰囲気について肌で感じることができました。国務省、日米協会、米国議会では、米国における日本に対するイメージや求める役割について、具体的に意見を拝聴できる貴重な機会になりました。

◆ 高校生

学校交流では、実際の高校の授業や学食、システムについて身をもって体験し、米国の高校生との交流を通して、人柄なども体感することができました。高校訪問があったからこそ現地の人が日本人に対してどう考えているのかを知ることができ、とても良かったです。また、日本と米国での授業内容の違いについて理解を深めることができたことに加え、最も対日理解を促進できる場であったと思います。

◆ 高校生

訪問先がワシントン D.C.だったからこそ、政治関係者などの普段はお会いできない方々と貴重なお話しをする機会があり、その経験を通じて新たな知見やこれまでに培ってきた知識を深められました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 表敬先関係者

高校生が議会関係者に英語で積極的に質問や発言する場面が見られました。また、短時間ながら米国会議員や下院議員と懇談する機会を持てたことで、日本の存在感や影響力を米国の議会関係者

に示す良い機会となりました。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

meteorite at Smithsonian National Museum of Natural History In Japan, I've scarcely ever seen such a large exhibition about meteorites. It was a great learning for me!	Difference between America and Japan AMERICA - Recycle - The Others JAPAN - Burnable - Non Burnable - PET - Can 2日前からアメリカに来たばかりの私、日本とアメリカではゴミの分別方法が違ってくることに気が付きました。アメリカではゴミはリサイクルできるものとできないもの、日本は、「燃えるゴミ、燃えないゴミ、ペットボトル、缶」に分別しなければいけません。 ゴミを分別する目的は、リサイクルと資源の有効利用ですから、美国の方が簡潔で理にかなっていると思います。しかし、全員がリサイクルできるもの、そうでないものを認識している必要があります、（実際にリサイクルできるのかどうか迷います）その点では日本の方が感覚的にわかりやすいのかもしれません。 個人的には、「紙、プラゴミ、PET、ビンカン」というふうに分別するのが、一番分かりやすく、目的に沿っているのではないかと思います。 皆さんはどんな分別方法が良いと思いますか？何かアイデアがあったらお待ちしております。
2025 年 3 月 24 日（Instagram） 高校生 スミソニアン国立自然史博物館の隕石 隕石に関するこれほど大規模な展示は、日本ではほとんど見たことがないです。 とても勉強になりました！	2025 年 3 月 22 日（Facebook） 高校生 私たちは数日前に米国に来て、米国の生活を楽しんでいます。 米国と日本では、ゴミの分別方法が違うことに気づきました。米国ではゴミはリサイクルできるものとできないもの、日本は、「燃えるゴミ、燃えないゴミ、ペットボトル、缶」に分別しなければいけません。 ゴミを分別する目的は、リサイクルと資源の有効利用ですから、美国の方が簡潔で理にかなっていると思います。しかし、全員がリサイクルできるもの、そうでないものを認識している必要があります、（実際にリサイクルできるのかどうか迷います）その点では日本の方が感覚的にわかりやすいのかもしれません。 個人的には、「紙、プラゴミ、PET、ビンカン」というふうに分別するのが、一番分かりやすく、目的に沿っているのではないかと思います。 皆さんはどんな分別方法が良いと思いますか？何かアイデアがあったらお待ちしております。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

お茶の水女子大学附属高校		
 KAKEHASHI America Bowl ～アメリカ研修を終えて～ お茶の水女子大学附属高等学校	 多文化社会 アメリカの高校生活は、多文化社会の中で過ごすことが多く、様々な文化に触れることができました。また、アメリカの高校では、多文化社会の中で過ごすことが多く、様々な文化に触れることができました。 Panel Branch High School	 アクション・プラン WHEN 4月、5月頃 WHO グループ全員で To WHOM 日本の高校生、Instagramを閲覧できる世界一の方を対象とし、 WHY 対日・対米理解促進の目的で、 WHERE Instagram、学校のHPを利用して HOW 日本文化、米文化、日本関係の品物について（米軍を訪問し感じたことなど）を報告・発信を行う。
【訪米中の学び】 ◆ 環境問題意識： - ナショナル・モール内にあるアメリカ植物庭園では、植物だけでなく熱帯雨林の消失について警鐘を鳴らす看板があるなど、環境問題に関するものを合わせて展示している点が印象的でした。 - 国立アメリカ歴史博物館では、ネットにからまった海洋生物など、特に海洋におけるプラスチック問題について訴えかけるような展示が多かったです。 - 米国のゴミ箱はリサイクルできるものと、そうでないものとの大きく2つに分かれていました。また、道端に置いてあるゴミ箱の数が多いためか、ポイ捨てされているゴミは少なかったように感じました。他にも、犬の糞を捨てることのできるゴミ箱もあり、このような取り組みが米国の道路をきれいに保つことに役立っていると思いました。 ◆ 多文化社会： 米国の現地校を訪問する際、アジア人ヘイトが少なからずあるのではないかと少し心配でしたが、快く受け入れてくれて嬉しかったです。日本では多文化主義という考えは浸透しておらず、人種関係なく、誰でも受け入れるという米国の考えが新鮮に感じられました。日本ではほとんどの生徒が日本人ですが、米国の学校には様々な背景を持つ生徒が集まっていて、そのような環境が米国での異文化理解を促進しているのだと考えます。 ◆ 戦争： 日本では、ドイツ国の首相・ヒトラーは頻出で、独裁者として強調されています。一方、大日本帝国の首相・東条英機についてヒトラーほど強調されている印象はなく、同じ枢軸国の元首であるにも関わらず、扱いに差があるように感じられます。米国では、第二次世界大戦のコーナーに入ると、まず東条英機、ヒトラー、ムッソリーニの枢軸国元首について大きく展示されていました。この3名全員が同程度の戦犯であると強調されている印象を受けました。 ◆ 日本に対するイメージ： - 日本車：米国では、米国産の車の比率の方が高いと思っていましたが、日本車の比率の方が高かったです。また、日本車によって日本を身近に感じている人もいました。海外において日本車の売れ行きが好調であることが伺えました。 - さくらまつり：さくらまつりは、ワシントンD.C.において大々的に実施されており、ミュージアムや博物館でグッズが販売されるなど知名度の高さが伺えました。寄贈された桜以外にも至る所に桜が植えてあり、身近に感じられているようでした。 - 日本語教育、ジャパンプール：米国の高校で日本語を選択可能だということまで日本の影響力		

があるとは考えていなかったため不思議に感じました。しかし、様々な方のお話を聞いて、日本は想像以上に文化的、経済的に米国に強く影響を与えていることを理解しました。そのため、日本語が選択可能となっていることに納得することができました。また、ジャパンプールについても参加者が多く、日本に興味がある人も沢山いると実感することができました。

【アクション・プラン】

グループ全員で、4月・5月頃に、対日・対米の理解を促進することを目的とし、日本の高校生、Instagramを閲覧できる世界中の方を対象に、Instagram、学校のHPを利用して日本文化・米国文化・日米関係の進展について、米国を訪問し感じたことも踏まえた紹介・発信を行います。

聖光学院



気づき・考え

- 現地の高校生達の現状への危機感
 - 所得や、最低賃金（minimum wage）の低さをしている。
- 街ごとに考え方が違う
 - Tacoma Park は伝統的にリベラルで、他のそういう街だと〜、そうじゃない街もあって〜という話をされた。

アクションプラン

- Why日常生活の中にも文化の差異が顕著に現れており、when,how週に一回は定期的、かつ意識的にニュースや本などで文化に触れて、考える機会を作りたい。
- Whyアメリカのメモリアルをたくさん作る文化にふれたWhen,How日本のアイデンティティに対する探求を深めるために、神社、寺などの歴史的・精神的に重要な場所を積極的に訪れ、伝統行事に参加したりする
- Whyアメリカの高校生や地域の議員などに会うことで知識不足を感じたので、When,Howニュースを見て知識を収集し、学校の新聞にコラムを寄稿するなど校内の人々にこのプログラムやアメリカと日本の関係などについて知らせる機会を作りたい。
- When,How知り合った人々とも定期的に、（月に一回は）連絡をとりあい、異文化理解に努めていきたい。

【訪米中の学び】

- ・ 食事はとにかく量が多いのが特徴で、食文化においては異国の食事をアレンジしたものが見受けられました。カニを食べた際に、米国の木槌とナイフを使うカニの食べ方や、カニ味噌は食べないことなど、些細な食文化の違いに驚きを感じました。日常生活の中にも文化の差異が顕著に現れており、自分たちにとっては慣例的なことであっても、その背景や意味を考えると意識を常日頃から持っていたいと思います。
- ・ 多様なバックグラウンド・異なる価値観を持つ人が多く見られ、対話することが互いの文化への正しい理解につながるのだと考えました。今回出会った人とも定期的に連絡を取り合い、今後も異文化理解に努めていきたいです。
また、記念碑の数が多さも印象的でした。記念碑はアイデンティティの形成という役割も担っているようでした。帰国後は日本のアイデンティティを探求するために、神社仏閣寺など歴史的・精神的に重要な場所を積極的に訪れ、伝統行事に参加したいと思います。
- ・ 米国の高校生達は、経済、政権、最低賃金などの話をしている、現状への危機感を抱いているようでした。知識不足を実感し、日頃からの情報収集と自分の意見を持つことの重要性を学びました。
- ・ 街ごとに考え方が違うというお話を聞き、今後は米国の各地域の特性にも気をつけ、より毎日のニュースに気をつけて、日々勉強を深めたいと思います。

【アクション・プラン】

米国で高校生や議員などに会った際に知識不足を感じたので、グループ全員で、6月末までに、自分の学校の生徒を対象として、ニュースを見て知識を収集し、このプログラムや米国と日本の関係について知らせるため、学校の新聞にコラムを寄稿します。

西大和学園高等学校

JICE報告プレゼンテーション

西大和学園高等学校

Why: 主に関西にアメリカボウルを広める、またゲームを通じた反戦教育を目指す

When: 2025年6月中までの実施を目処に 6/28(土)あたりにイベント実施

Who: 西大和学園高等学校のプログラム参加生徒3人で

To Whom: 日本の中学3年生～高校2年生

What: アメリカボウルの大会及び遊技プログラム連携に関するイベント

How: イベントの実施

具体的にはアイスブレイクとして、日本人、アメリカ人、日本人の世界観での人生ゲームを実施。メインイベントはアメリカボウルの模擬大会とし遊技機などを出展する。その後、遊技プログラムの内容を共有し、アメリカボウルを宣伝する。

《日本のアイドルのダンスとプリクラ体験》を企画。そこでの盛り上がりも高く、また、アメリカのプリクラは現状日本のものとは大きく異なっており、日本のはるかなさが感じられている。また、ゲームスアイなどを通じて、カワイイ文化の発信に努めた

When: 4月からクラウドファンディングを立ち上げて、6月頃には買ってプリクラの機材をアメリカに送る

Who: 西大和学園高等学校のプログラム参加生徒3人で

To Whom: アメリカの中高生、特に女子高生
Why: "Kawaii"を広める。アメリカの現地校との交流プログラムでカワイイをテーマにワークショップ
What: Kawaii文化に絞る事業(プリクラ)

How: プリクラの機材を中古で買い取り、アメリカの中高生が多い、人口の1地域に送ることで、日本のKawaii文化自体を多くの学生たちの目に留まるようにしたいと思います。

【訪米中の学び】

- ・ 米国人は、予想以上に日本に対して好意的な感情を持ってきていました。
- ・ 日本についてポジティブなイメージがあまりにも多く、ネガティブなイメージを聞くことはあまりありませんでした。
- ・ 日本の食文化、アニメ文化、車は人気を誇っており、これらの点において日本を評価してくれる人が多く見受けられました。
- ・ 米国の経済において、日本はかなり重要な位置づけにあることを学びました。
- ・ 米国の核の傘に日本が入っており、安全保障の点で論争が続いている点や、安全保障に付いての質問をした際、立場によって意見が異なっていることを知りました。

【アクション・プラン】

- ・ 2025年6月中までの実施を目処に、グループ全員で、主に関西で、アメリカボウルを広めるイベント、または、ゲームを通じた反戦教育を目的としたイベントを、日本の中学3年生から高校2年生を対象に実施します。
- ・ グループ全員で、米国の中高生、特に女子高生を対象に、"Kawaii"を広める目的で、4月からクラウドファンディングを立ち上げ、6月頃にはプリクラの中古機械を買い取り、米国の中高生が多い地域に送ることで、日本のKawaii文化自体を多くの学生たちの目に留まるようにしたいと思います。また、米国の現地校との交流プログラムで"Kawaii"をテーマにワークショップを実施します。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）